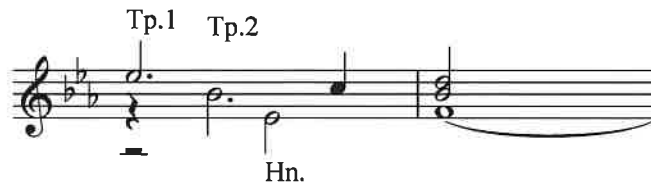


『ちいさな万華鏡』 寸評

- ・長三和音を主体としたふくよかなひびきが金管合奏で活きる
- ・休符のはさみかた、m.7 b.3-4 のスタッカート等 金管楽器のあつかいに手なれている
- ・m.9 をソロではじめ楽器をふやしていくのもm.13 への期待を高める
- ・各楽器の役割とちょっとした出番によく目を配っている
(Tp.2 はやや不満)
- ・万華鏡はもともとちいさいものだから「ちいさな」はやや蛇足気味

完成度をさらに上げるために

- ・m.5 b.2 Tp.2 のファを半音高めてファ# (実音ミ) にしたらどうだろう
4小節のくりかえしにちょっとした変化をつける
- ・m.1 b.3-4 Tp.1 にスラーをm.4 と同じくつけたらどうだろう
- ・どこかにベルトーンをもりこんでみたい
たとえば：m.11



- ・m.4 b.1 Tp.2 やや唐突な跳躍 オクターヴ下のソでもよさそう
- ・m.3 b.4- m.4 b.1 メロディとバスのソーファ
m.7 b.4- m.8 b.1 メロディとバスのファー-ミ♭
平行8度がきになる
- ・m.2 b.1-2 の緊張度の高いひびきはたとえばテヌートを振って差異化をはかると
前後関係のなかでより納得がいく (m.6 も同様)

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

まじまりよくあたたかなひびきが魅力です。

持庵 勉